

## 情報連絡員からの報告（要旨）

### 《製造業》

#### 食料品

1. <北海道 味噌・醤油 >  
新米が流通しても流通業者の買い付け競争が激しさを増しており、米の価格の高止まりが解消されていない。味噌業界にとって価格を含めての今後の原料米の手当については、相当厳しくなると思われる。
2. <青森県 菓子 >  
12月に入り、雪が降り続き客数が減少。クリスマスケーキの販売数は昨年比70%ほどの店舗が多い様子。原因はケーキの値上がりによる買い控えがあったと思われる。路面店は雪が多い津軽地区の売上減少が目立つ。
3. <石川県 調味材料 >  
12月年末の出荷は好調に推移し、売上は1割を超える増加となった。インバウンド需要や復興応援等の理由が考えられる。ただし、長引く円安がもたらす物価高・原材料高の影響で収益はそれほどではない。
4. <山口県 水産食料品 >  
水産資源の減少は深刻。水産加工業者と漁業者の廃業が続いており、人手不足と人件費の高騰が大変深刻である。地域の活力が失われてきている。
5. <佐賀県 製茶 >  
12月になり、ようやく例年通りの気候とお歳暮シーズンと重なり売上も僅かながら好調のようにつながえる。来月も新春初売やイベントが控えているので期待したい。
6. <大分県 菓子 >  
原材料の高騰等で商品の値上げを余儀なくされているが、物価高騰により嗜好品である菓子は後回しにされている感があり、クリスマスケーキ等も年々売れなくなっている。

#### 繊維工業

7. <福島県 ニット >  
ニットフェア（秋・冬）の売上が去年の3割減という結果に。やはり消費者の購買意欲が低下しているように思われる。また、経済的にも値上げが続き、衣服にはお金をかけない人が増えているように感じた。
8. <福井県 織物工業 >  
秋物衣料の不振等によりファッション関連は低調。冬物重衣料の今後の動きに期待するも、見通しは厳しい状況。組合では、医療・介護、防災・減災など新たな分野での織物活用の検討を開始した。
9. <奈良県 繊維工業 >  
気温の低下に伴い、11月まで動きが鈍かった重衣料を中心とする秋冬ファッションが高稼働し、インバウンドだけでなく国内客の消費マインドも高く、売上が順調に推移した店舗が多かった。
10. <和歌山県 繊維工業 >  
受注件数、数量ともに昨年度より減少しており、業況は好転していない。制服を取り扱う企業では少子化が原因で減収しているという声も聞こえる。繊維業界の状況はかなり悪く、今後好転する可能性は低い。
11. <鳥取県 婦人服 >  
暖冬に加え、百貨店のセールとなる12月以降を待つ顧客が多く、冬物の動きは鈍かった。賃上げは進んではいないものの、価格転嫁は不十分な状況。円安による輸入物のコストアップが需要減に繋がっている。
12. <沖縄県 繊維・同製品 >  
引き合いは多いものの、人手不足により納期が長期化している。資材や賃金の上昇が続いているが、その上昇分を価格に転嫁できない部分もあり、価格見直しのタイミングが難しい。

#### 木材・木製品

13. <青森県 製材 >  
新築住宅の着工率が低下し、県産材の利用がままならない状況が続く。さらに、冬期間は積雪のために除雪経費がかさみ、加えて雪解けまで搬出できない物件もあり一層厳しい経営が続いている。
14. <岩手県 一般製材 >  
県内の新設住宅着工戸数は、前年同期比で約19%増の590戸と令和6年4月以来の増となった。製材品は先月頃から若干の動きが出てきた。また、丸太の価格は徐々に上昇しており、今後の動向を注視する必要がある。
15. <秋田県 家具・建具 >  
12月の業況は、前年同月比で不変であった。資材価格の高騰が続いていることから、取引先と価格交渉を行ってきた結果、前年比20~30%の値上げを行うことができた。

16. < 静岡県 製材・木製品 >  
物価や諸経費が値上がりする中、木材建築資材は値下げ傾向にある。組合員製材工場は昨年同期より稼働が1割程度下がったとみられる。
17. < 石川県 製材・木製品 >  
12月度の売上は前年と比較すると166%と大きく増加している。12月に大きく増加した要因は、9月の能登半島豪雨によって震災被害を受けた輪島や珠洲に対して木造仮設住宅の建築が追加になったことにある。
18. < 和歌山県 家具・装備品 >  
ホテルや商業施設など万博需要向け工事が盛んに動いており、人手不足となっている。各工場もおおむね手一杯となり需要がオーバーしている状況である。

### 紙・紙加工品

19. < 東京都 紙製品 >  
横浜で開催された「文具女子博」は開催期間4日間で約52,000人が来場した。この文具紙製品メーカーによる日本最大級の即売イベントは一般ユーザーからの注目度が高く、令和7年は大阪、博多でも開催が決定した。
20. < 愛知県 紙器・段ボール >  
年末年始は曜日の並びが良く、帰省や海外旅行から国内旅行に目が向いたため、ギフト用や行楽地の土産物用が対前年を大きく上回った。こうした需要に支えられ業界全体としては比較的好調であった。
21. < 岐阜県 機械すき和紙 >  
サプライチェーン間にある在庫が消化されつつある。前月同様、収益改善のための製品価格の値上げを今年度重点的に対応してきた中、徐々にユーザー各社との妥結に結びついてきた。
22. < 福井県 和紙工業 >  
観光地を訪れるインバウンド需要の回復に伴い、土産物やギフト関連の製品は若干ではあるが好調な販売状況が見られている。
23. < 愛媛県 機械すき和紙 >  
衛生用紙の国内出荷は、前年同月比1.2%増、2カ月連続のプラス。再生紙トイレットペーパーの原料古紙に、タイト感が出てきた。年内納品のトラック確保が一層厳しく、物流に課題が山積している。
24. < 高知県 機械すき和紙 >  
紙製品全体で、販売金額、販売量、生産量が3カ月連続で昨年同月比を上回った。特に、先月に続き、衛生用紙全般の動きが良い。

### 印刷

25. < 茨城県 総合印刷 >  
前年同月と比べ業況に大きな変化はなく、収益と資金繰りは厳しい状況が続いている。資材の値上げに対して各社とも十分な価格転嫁が行えていない。
26. < 栃木県 印刷 >  
DX等により紙の印刷需要が減少する中、価格競争が激しくなっている。特に官公庁の案件では、原価無視の低価格受注が起きている。年末恒例の年賀状はほぼ半減。各社業態変革を進めている。
27. < 東京都 金属印刷 >  
エネルギーコスト、印刷用インキ、塗料などの値上げに苦慮している。また、他素材容器（特に紙）への切替えにより需要減少。組合員の減少も続いている。
28. < 京都府 印刷 >  
価格転嫁は進んでいるが、資機材の値上がりと同様までは難しい。最低賃金対応も進んでいるが、経営への負担は免れないという声もある。
29. < 長崎県 印刷 >  
売上高は微増だが緩やかな回復傾向とみられる。しかしながら、原材料高による物価の高騰から、諸材料費の値上がりが続いており、景況としては依然として厳しい状況である。
30. < 宮崎県 印刷・同関連業 >  
12月は全体的に需要が低迷していた印象だ。特に官公庁の発注数が減少しているようで、また原材料価格高騰による商品価格の見直しもあまりされていない、あまり反映されていないとの声をよく耳にする。

### 化学・ゴム

31. < 東京都 ゴム製品 >  
自動車関連の受注は低迷している。また、原材料費の高騰に苦慮している。人手不足は続いているが、賃金上昇分を補うため人員削減も検討している。
32. < 大阪府 セロイド・プラスチック製品 >  
文具関係は少子化の影響でエンドユーザーを含め厳しい状況が続く、コストアップの販売価格への転嫁も難しくなっている。高付加価値商品の開発市場導入し、売上向上を図っているが、その成果に期待したい。

33. <兵庫県 ゴム製品 >  
 厳しい状況は変わらず。秋冬商戦の動きが鈍く、追加オーダーは期待薄。季節商品の一面もあるため、昨今の天候不順は業界にとってマイナス要因となっている。
34. <島根県 プラスチック製品 >  
 受注状況については復調傾向にあるが前年度比93%と未だマイナス。客先からの情報によると、余剰在庫の解消に向かってはいるが市場需要が全体的に下降しており、回復基調となっていないとのこと。
35. <岡山県 ゴム製品 >  
 一部取引先の減産があり、11月から3カ月は売上減少。また、一部取引先の経営統合の動きもあり、業界の先行きは不透明。業界の動向を注視し、対応していく必要あり。
36. <広島県 プラスチック製品 >  
 為替の影響などで原材料価格が高止まりしているため、材料ロス低減への取り組みや価格転嫁の実現に向けた継続的な施策が必要。自動車業界向けの受注は、前年同月比で減少しており、厳しい状況が続いている。

### **窯業・土石製品**

37. <秋田県 生コンクリート >  
 12月の出荷数量は、原材料価格の高騰による工事計画の見直しや、建設現場の長時間労働の規制に伴う工事の遅れの影響により、前年同月比80%程度であった。
38. <群馬県 コンクリート製品 >  
 組合員の景況感は前年並みか若干下回る状態。販売先の施工職人不足による工事遅れの影響もみられ苦戦。輸送費高騰により搬送手段の見直しが課題。
39. <東京都 生コンクリート >  
 新規契約物件の販売価格は上昇しているが、工事の遅れにより、出荷は前年比10%程減少。骨材価格、産廃処理費用、労務費などの上昇に苦慮している。
40. <愛知県 陶器 >  
 茶器、食器類の需要は引き続き安定しているが、人手不足の影響もあり製造待ちしている問屋もある。また、盆栽鉢も安定し、海外からの受注が増加してきている。
41. <岡山県 鋳造 >  
 夏から11月くらいにかけては仕事が戻ってきた状況はあったが、中国経済の低迷によるものか、12月以降は減少傾向にある。日本人の採用が非常に厳しく、外国人材に頼らなければならない状況が続いている。
42. <長崎県 陶磁器 >  
 原材料の値上げ、燃料であるガスは需要期であるため価格が高止まりしている。更に原料の値上げの要請もあることから、業界を取り巻く環境はますます厳しくなっている。

### **鉄鋼・金属**

43. <岩手県 金属製品 >  
 工場稼働率・手持ち工事量は横ばいが続いているが、引き続き建築計画の延期や中止が相次いでおり、仕事を確保できている企業と確保できていない企業の差が拡大してきている。
44. <新潟県 ハウスウェア >  
 全体として消費者の節約志向が根強く、消費に勢いが感じられない。燃料費や人件費の上昇が続いている中で、収益の確保には追いついていけない状況である。先行不透明感がしばらく続きそうだ。
45. <三重県 鍍金 >  
 業界の生産額は、増加傾向が続いている。中心は自動車関係であり、従来の燃料系のほか、EV関連の受注も増加しており、好調な状況が続いている。
46. <石川県 鉄素形材 >  
 建機業界は引き続き減産傾向にあり、2024年全体でも厳しい年となった。パワーショベルに関して中国メーカーの低価格路線もあり、諸外国での市場が奪われていると推測する。
47. <熊本県 異業種 >  
 売上高及び収益性については、減少していると答えた組合員が殆どである、まだ依然として、人材不足と原材料費の高騰は、解消されておらず、中小企業の大きな痛手となっている。
48. <鹿児島県 金属製品 >  
 手持ち工事量の減少に伴い受注価格が下落傾向。春先以降の仕事が見えないという声が多く聞かれ、需要低迷の長期化に不安が広がっている。

### **一般機器**

49. <秋田県 金属加工 >  
 12月の売上は、前年同月比80~90%となった。今後も受注減少が見込まれる中、人員削減に踏み切ったところもあり、先行きが不安な状況が続いている。

50. <山形県 一般機器 >  
自動車部品製造業等において、金型の所有・保管・処分についてこれまで下請け負担であったものが、大手メーカー側の負担割合が増えたことから、これからコストの面で改善が見込める状況になってきた。
51. <栃木県 一般機械器具 >  
全ての業種で停滞していると思われる。全般的に好景気を叫んでいる職種が見当たらない。毎週の求人チラシが減少してきている。求人方法が変わっただけではないと考える。
52. <長野県 一般機械器具 >  
機械装置製造、ロボット製造は中国経済の減速の影響を引き続き受けている。自動車関連は、受注量は安定しているが、原材料価格の高騰が収益に影響を与えている。
53. <三重県 一般機器 >  
売上は上がっているが材料単価の上昇に伴う値上げがあったため、収益でみると悪化している。EV関連がなかなか伸びず、注文も少ない状況が続いている。中小企業の大半の収益は悪化しているのではないかとと思う。
54. <福井県 機械工業 >  
物価やエネルギー価格、原材料の高騰の影響を受けて業界全体の仕事量が減少傾向にある。特に半導体関連や設備・自動車関連では、受注量の減少が続いており、今後の事業運営に対する不安が広がっている。

## 電気機器

55. <長野県 電子機械器具 >  
組合員の業種により差異があるが、全体的に需要の停滞が続いている。1番の問題点は受注があってもその後の受注が不安定で、今後の見通しが不透明である。
56. <山梨県 電気機械器具 >  
前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲10%となった。半導体業界の景況感が回復傾向にあるようだが、2次・3次下請けまで波及しておらず、先行きは不透明である。
57. <三重県 電気機器 >  
受発注共に低迷が続き、年末を迎えても例年通りの動きがない。厳しい状況が続いている。
58. <富山県 電子部品・デバイス >  
産業機器の動きが鈍くなっている。自動車向けは、東南アジアを中心に低調である。民生通信機器市場は、新規開発の動きが出てきている。電動車向け新製品は、開発が遅れてきている。
59. <京都府 電機機械器具 >  
受注額は増加傾向にあるが、継続する採用難を背景に負荷対応に苦慮している。また、原材料の高騰等により製造原価が著しく上昇しており、利益を圧迫している。喫緊の課題は価格転嫁に尽きるが難航している。
60. <兵庫県 電子部品・デバイス >  
国内自動車メーカーの販売は減少傾向にあり、これに伴い減少見込みである。中国での販売は、中国メーカーの新エネルギー車が好調であり、日本のメーカーは減少している。

## 輸送機器

61. <静岡県 輸送用機器 >  
自動車業界は昨年大手自動車メーカーの不正発覚前で生産が多い状況であった。不正発覚後、生産は減少し前年比1割程度の減産となっている。
62. <岐阜県 輸送用機器 >  
組合員の主要事業である航空宇宙関係は、12月度の対前年売上高は▲1%と一進一退で、4月からの9カ月でも7.5%と伸びが鈍化している。米国B社の生産回復の遅れに加え、ストライキの影響が続いている。
63. <三重県 輸送用機器 >  
自動車関連の物量は悪化、一般向けは微増である。全体的には大きな変化なく、好転の兆しもまだない。
64. <兵庫県 輸送用機械器具 >  
12月売上高は前年同月比13%の減収であった。部門別には機械関係は25%、造船関係が12%の減収となった。今後の見通しは資機材費の高値止まり、人件費の上昇等で取り巻く経営環境は厳しさが続くと予想される。
65. <島根県 自動車部分品・付属品 >  
12月の売上額は前期比で増減はなかった。価格転嫁しても売上が下がっている現状を見ると数量がいかにか下がっているかが分かる。引き続き新規受注に向けた営業を行う必要がある。
66. <広島県 輸送用機械器具 >  
地元の手自動車メーカーの輸出台数は、欧州向けの低迷に加えて、北米の在庫調整が加わり、輸出全体で前年比▲16.7%の減少となった。国内生産台数は生産調整が続き、前年同月比で▲16.2%の減少となった。

## その他の製造業

67. <秋 田 県 曲げわっぱ >  
12月の売上は、原材料費の高騰により収益が悪化し、前年同月比で減少した。なお、1月より商品の値上げを  
する予定であり、売上の減少が懸念される。
68. <長 野 県 漆器 >  
漆器産業は、商品値上げに慎重であったが、やっとこの年末を迎え、若干ではあるが値上げを実施している企  
業が見え始めた。商品が動き始めてきたことや、値上げということもあってか収益は若干好転傾向を見た。
69. <愛 知 県 アウトソーシング >  
自動車製造業においては全般的に良くなく、業務請負や労働者派遣業において厳しい状況が続いている。同業  
者が倒産する話も耳にする等、派遣会社を取り巻く環境は年々厳しくなっている。
70. <石 川 県 漆器 >  
震災仮設工房の整備が進んでいるが、生産体制は震災前の6割しか整っていない。震災支援需要も落ち着いて  
きている。また工房などの復旧・復興はほとんど進んでいない状況である。
71. <和 歌 山 県 なめし皮・同製品・毛皮 >  
商品の動きが前年同月より悪かった。相変わらず紳士用の革の動きが鈍く、先月まで婦人用バックはやや動き  
はあったが、それもかなり悪くなっている。
72. <香 川 県 漆器 >  
景況が悪く、特に販売状況が良くない。インバウンドの陰りが出てきているのではと感じる。商品全体の原料  
が高騰して商品を値上げせざるを得ない。ガソリン等の燃料も高騰しているため、運賃が上がり大変厳しい。

## 《非製造業》

### 卸売業

73. <北海道 各種商品 >  
12月は季節商品の納入も一段落し落ち着いた動きとなったが、小売店の減少等で前年に比べ数量が落ち減収となっている。このため収益も低下した。
74. <群馬県 各種商品 >  
業界の繁忙期ながら洋紙需要低下の影響で売上は昨年比で伸び悩んでいる。仕入先メーカーは、洋紙に加えて、年明けから段ボール関連の値上げも予定している。
75. <埼玉県 その他 >  
セメント・生コンの需要が引き続き減少し、底を打つ気配がない。また、組合員の仕入先が来年4月からの大幅な値上げを打ち出しており、販売価格に転嫁できるかが課題となっている。
76. <兵庫県 その他 >  
近隣で大型の物流施設の開発が進んでおり、今後人員確保や人件費の高騰などの影響が懸念される。また交通量の増加による環境悪化も懸念される。近隣地価も上昇傾向にある。
77. <広島県 総合 >  
資材卸売業者が主体ではあるが、昨年までの部材仕入難も解消され、売上高は増加基調で推移し、収支も好転している。自動車部品関連は昨年の半導体不足が解消され、受注状況も回復している。
78. <福岡県 古紙 >  
国内の製紙業界はモノの動きが悪く生産が振るわない。海外向けに関しては、中国の景気が落ちてきているせいか、製品価格が上がらず苦慮している。

### 小売業

79. <北海道 各種商品 >  
本格的な冬の観光シーズンとなり、外国人をはじめ観光客が多く訪れている。年末の12/27(金)と28(土)の夜は仕事納めの地元民と観光客で中心市街地の人通りはかつてないほどの混雑ぶりで飲食店は賑わっていた。
80. <宮城県 鮮魚 >  
前年同月比で1.5倍の来場者に恵まれ、売上も1.2倍程度伸びているという喜びの声が多く聞かれた。天候が安定していた影響もあるが、新店誘致活動が実を結んだ結果だと思う。
81. <栃木県 各種商品 >  
12月に入り気温も下がり冬物衣料中心に動きが活発になり始めたが、すぐにまた暖かい冬に逆戻りしてしまい、中旬以降の売上に苦戦した。年々暖冬による影響は大きくなり、売り方を改めて考え直す必要がある。
82. <群馬県 花 >  
今年の秋以降、花材と資材の卸売価格が急上昇し、店頭価格高騰が消費者の購買意欲を低下させた。かつて活発だった12月の需要も、花離れと単価減少が目立つ結果となった。
83. <滋賀県 茶 >  
12月の繁忙期に入り、昨年以上に買い回り客は増えたようだ。抹茶や碾茶を取り扱う京都や西尾（愛知）では海外の需要が急増しており、滋賀県でも取り扱うことで事業が上向くことが期待できる。
84. <京都府 各種商品 >  
インバウンドは依然好調であり、特に中国人旅行客が増加している。修学旅行も例年より時期後ろ倒しで12月に来ている印象である。しかし、船便での団体客は少し落ち着いている。

### 商店街

85. <青森県 商店街 >  
ボーナスが支給され、お歳暮・クリスマス・お正月と12月は最も売り上げの高い月でもあり、各店は書き入れ時であったが、年末は災害レベルの豪雪により人出が伸びなかった様子。
86. <宮城県 商店街 >  
完全閉店の衣料品関連店舗がまた1つ出現した、おしなべて年末商戦は低調で、気のせい各業種においてウインドーに陳列する商品数も減少傾向に感じられ、とにかく物販は厳しい状況だ。
87. <新潟県 商店街 >  
毎年12月に歳末大売出しを実施しているが、前年に比べ参加店が5店減り、売上も減少した。物価高騰の影響が消費者もシビアになっているように思う。

88. <富山県 商店街 >  
年末ということと、隣接の百貨店からの人の流れが相まって、人出は多く、雪模様の日にも衣料品店を除くと買い物客で賑わっている。1月～3月にかけて、空き店舗が数店埋まる予定となり、今後を期待している。
89. <京都府 商店街 >  
12月は食料品の値上げが目立ち、特におせちの食品は全て値上げを行っていた。この時期に合わせて値上げをしている様子で、物価上昇による価格転嫁を上手く行っている。
90. <大分県 商店街 >  
12月は季節通りの寒さが戻り例年並みの人出であった。特に飲食店は良かった。しかしながら、消費者の価格に対する目は厳しく、物販は価格競争になっている。

## サービス業

91. <岩手県 飲食 >  
毎年12月は年末に向けての買い控え等で売上が減少する傾向がある。今年は更に原材料や消耗品の値上がりや冬場の収益に響いてきている。1月、2月の連休やイベントを盛り上げ、集客に繋げたい。
92. <群馬県 美容 >  
料金値上げで客単価は上昇したものの、来店サイクルが伸び、来客数減少により売上増加には繋がらなかった。さらに原材料費や光熱費、人件費の上昇で収益が悪化している。
93. <東京都 飲食 >  
前年同月と比較して、宴会客が少ない印象。販売価格の上昇に伴い、売上が伸びず、収益は悪化。また、人手不足により、書き入れ時である年末に営業をしない組合員も増えてきている。
94. <静岡県 宿泊 >  
クリスマスシーズンにおいては、例年と比較して曜日の並びが悪く集客に苦戦した。年末は、インフルエンザ等による体調不良を理由にしたキャンセルが相次いだ。
95. <島根県 旅館 >  
12月から冬季に入り宿泊客が少なくなるが、前年度同月比93%、前月比72%、コロナ前の令和元年12月と比べ81%とかなり落ち込んだ。要因としては、大雪の予報やインフルエンザの増加が考えられる。
96. <高知県 普通洗濯 >  
物価高に対する節約志向が強くなったせいか、ホームクリーニング需要が減少。年末の駆け込み需要も少ない。エネルギー価格、原材料価格は高止まりで人件費も増え収益は減少している。

## 建設業

97. <群馬県 一般土木建築 >  
現場での盗難被害対策で防犯カメラ設置や夜間パトロールを実施し、支出が増加。繁忙期・除雪業務が重なる中、若手採用も困難で、業務負担が増大している。
98. <東京都 硝子工事 >  
首都圏を中心とした古いビルの建て替え・大型再開発の動きは2025年以降も続きそうであるが、人手不足に加えて建設資材や物流費の高騰なども大きな課題として継続しそうである。
99. <長野県 設備工事 >  
現場技術者の高齢化がいよいよ深刻な状況となってきている。住宅等においても新築住宅件数は激減しているなか設定工期までに完成することが非常に困難となっており、2カ月程度は延期となる物件が増加している。
100. <富山県 電気工事 >  
公共工事、民間設備投資が好調である。新築住宅、リフォームについても、2025年4月の建築基準法改正前の駆け込み需要で増加している。
101. <大阪府 タイル工事 >  
燃料費の高騰によるメーカー各社への配送費の上昇と人件費の上昇により、資材配送スケジュールの見直しがあり、その上昇分をどのように価格に反映するか各社が検討中である。
102. <宮崎県 管工事 >  
水道施設工事の発注においては順調であったが、管工事においては年々減少している。また大型物件が工期を迎えることから、ますます減少すると思われる。

## 運輸業

103. <岩手県 倉庫 >  
12月の事業収入は前年比で▲627千円。全体収入では前年比で▲7,936千円であり、15カ月連続で前年収入を下回っている。人件費を中心に支出額が増加し、収入と支出がほぼ同額となった。
104. <秋田県 トラック >  
12月の売上は、前月比、前年同月比ともに横ばいとなったが、燃料油価格激変緩和対策補助金の減額によって、燃料費が掛かり増しとなったことにより、収益は前年同月比95%程度となった。

105. <山梨県 道路貨物 >  
天候不順の影響によって野菜・果物の出荷量が少なく、燃料価格高騰によって収益確保が困難な状況が続いている。年末の忙しさも無く、業界全体で景況感の低迷を感じる。
106. <京都府 道路貨物 >  
燃料費が前月より値上がり、負担が増えている。また、燃料費の補助金が終了したため、来月は更に5円ほど上がる見込みである。運輸業者にとって厳しい状況になることは避けられない。
107. <奈良県 貨物運送 >  
長期の燃料高が経営を圧迫し、コロナ融資の返済などに支障が出始めている。今後、燃料に対する政府の段階的補助金の縮小により、さらに経営悪化が懸念される。
108. <徳島県 貨物運送 >  
軽油価格が一向に下がらない中、燃料油価格激変緩和事業が縮小され厳しさを増している。規模が小さい事業者ほどドライバー確保や価格転嫁が進んでおらず、今後も厳しい状況は続く。

### その他の非製造業

109. <千葉県 輸出入 >  
12月に入り、先月に比べて空港内の利用客数について鈍化傾向が見られてきた。売上においても前月比約10%減で、最近のインバウンド客の勢いからはやや落ち着いた感じを受ける。
110. <神奈川県 不動産 >  
住宅ローン金利の変動に伴い、売買物件の購入が停滞。賃貸についても相変わらず滞納、自己破産が起きている。
111. <長野県 砂利採取 >  
昨年度ここ10数年で1番出荷量が少なかったが、今年度も同程度と予想される。しかし、数年にわたる値上げのため出荷額は順調である。
112. <岡山県 信用組合 >  
12月は年末資金の資金繰りを中心に事業者支援を行った。本業支援についてはビジネスマッチングで有効商談となった先のフォローを中心に販路拡大支援を行った。本年も引き続き本業支援に力を入れていきたい。
113. <広島県 不動産 >  
住宅地、商業地ともに売買が減少している。一般向けでは、材料費の高騰や人手不足により戸建住宅や共同住宅の建築等が減少。マンション販売についても、価格高騰により新築・中古ともに売れ行きが低調である。
114. <福岡県 貸金業・クレジットカード >  
高級ブランド品や金の相場が以前に比べかなり高いことから、より精巧な偽造品が組合員店舗に持ち込まれるようになった。単価が高く、持ち込まれる量も多くなってきたことで被害金額が大きくなっている。